

学習に取り組みやすい環境をデザイン

3

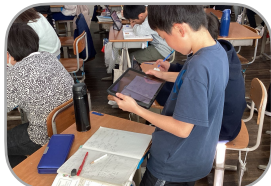
13 MAY. 2025

自分のペースで学習に取り組んでいます

荒木先生は昨年度から5年生の子どもたちを受け持っています。2学期から授業の一部に「自由進度学習」を取り入れて授業を行なっています。子どもたちの学習への取り組みの様子を見てみると、「学習に対する満足度が高くなってきている」と荒木先生は感じています。(昨年度の11月取材)



①第1時には、全体と部分との関係から「割合」「くらべる量」「もとにする量」の求め方を学びました。授業の最初に前時の学習内容の確認を行いました。各自で、今日の授業の「めあて」を立て学習に取り組み始めます。



②ノートで解いたチェック問題をiPadで撮影してスクールタクトにアップロードします。解答が合っているかは先生に確認してもらいます。



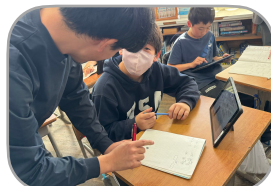
③先生はスクールタクトでチェック問題の確認。丸付けをしながら子どもを励まします。



学習環境がデザインされています。教室の中が、「グループ学習ゾーン」「個別学習ゾーン」「立って学習するゾーン」に分かれ子どもたちは自分にあったゾーンで学習できるよう工夫されています。教室の前の黒板を使ってミニ授業が行われています。(⑨)

参観された学力向上検討委員の先生方が見た授業の様子

- ・黙々と取り組んでいる子がいました。答えが合わないで教科書のページを行き来しながら取り組んでいる子に対して先生が「式も図も完璧、計算ミス」と声をかけるとホッとスクールタクトで再提出をしていました。先生はスクールタクトを見ながら全体に声をかける場合とこっそり伝える場合をその子に応じて行っていました。「今日はチェック問題Aまでいく」と目標を立てて、達成できたと振り返っていました。
- ・自由進度学習に取り組むを始めてこれほど短期間に完成形に近づいていることに驚きを感じました。この授業をやり切るぞといった荒木先生の気持ちが伝わってきました。一人になって誰とも喋らずに黙々と問題を解き続ける子(⑥)もいれば、廊下側の壁のある机のところで話しながら取り組みたい子(④)もいました。前の黒板のところに集まって先生のそばにいて学んでいる子(⑨)がいるなど本当に様々な学び方が保証されていて、誰一人取り残されていないと感じました。



⑦先生に直接質問をしてヒントを出してもらうことによって問題を解き進めることができています。



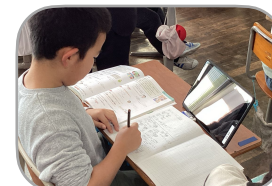
⑧スクールタクトにeboardへのリンクが貼られています。繰り返し再生して学習を進めています。



④グループ学習ゾーンで友だちと話し合いながら学びます。「くらべる量」ともとにする量についてホワイトボードに図を書きながら確認しています。自分の意見を伝え合うことによって理解が深まっています。



⑤教科書の問題を解いた子が教室の前や教室横の机に置いてある解答のところに持って答え合わせをしています。



⑥個人で黙々と教科書の問題やスクールタクトの問題に次々と挑戦しています。

見通しをもって学習に取り組もう

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
自由進度学習 175~179ページ	自由進度学習 181ページ	自由進度学習 183ページ	自由進度学習 183ページ	自由進度学習 183ページ	自由進度学習 183ページ	自由進度学習 183ページ	自由進度学習 183ページ	自由進度学習 183ページ	自由進度学習 183ページ	自由進度学習 183ページ	自由進度学習 183ページ	自由進度学習 183ページ
教科書175 P問題175 P問題176 P問題177 P問題178 P問題179	教科書181 P問題181 P問題182 P問題183 P問題184	教科書183 P問題183 P問題184 P問題185 P問題186	教科書183 P問題183 P問題184 P問題185 P問題186	教科書183 P問題183 P問題184 P問題185 P問題186	教科書183 P問題183 P問題184 P問題185 P問題186	教科書183 P問題183 P問題184 P問題185 P問題186	教科書183 P問題183 P問題184 P問題185 P問題186	教科書183 P問題183 P問題184 P問題185 P問題186	教科書183 P問題183 P問題184 P問題185 P問題186	教科書183 P問題183 P問題184 P問題185 P問題186	教科書183 P問題183 P問題184 P問題185 P問題186	教科書183 P問題183 P問題184 P問題185 P問題186

荒木先生が子どもたちと共有した「学習計画表」です。全13時間の中で本誌で紹介したのは2時間目です。教科書の問題が解けたら教室の中にある「答え合わせコーナー(⑤)」へ行き答え合わせを自分で行います。チェック問題はスクールタクトで解答し先生が合っているかを随時確認していきます。(③)

※出典：「超能力1 自由進度学習はじめてのステップ」 荒木先生

参観された学力向上検討委員の先生方のご感想

- ・若い先生にどんどん見てもらいたい授業でした。この単元「割合」は担任として力を入れる授業です。かつては、一つひとつ丁寧に押さえていくように考えて授業を進めていくのですが、実は「もうそんなところかわかっている」という子や「さっぱりわからない」という子までいるのに、過去には全体指導をゆっくりとやっていたことがありました。
- ・現在どの学校でも「自由進度学習」に取り組もうとしています。荒木先生のクラスのようにスタイルが出来上がり、子どもたちがやり慣れている姿を見たのは初めてです。タブレットの扱いも慣れていてスムーズでした。自分に自信を持って取り組んでいる子どもの姿が見られました。
- ・どのように進めていけばいいのかわからない、何をやればいいのかわからない、について子どもたちの見通しがはっきりしていました。13時間分の単元の流れが示されていることやノートに書いて写真に撮ってスクールタクトにはるといった紙とデジタルをハイブリッドで上手に使い活かしています。今までの学びを活かしつつ新しい学びが実現できていました。
- ・先生がファシリテーターとして展開している良い授業だと思いました。このような学びを展開している子どもたちがいることを中学校でもきちんと理解しておくことが必要です。授業についての「小中連携」が大切になります。
- ・不易流行についてです。今日の授業では「不易」の部分(先生と子どもの関係、子どもどうしの関係、子ども理解)を先生が押さえているから「流行」の部分(自由進度学習やICT)が活きていたということです。「不易と流行は授業の両輪である」ことを忘れてはいけません。
- ・子どもたちを見ていて答えを出すのがゴールではなくて、どうしてそうなるのか導き出すまでの過程を大切にしている姿勢が伝わってきました。

西箕輪小学校 5年 荒木優哉 先生の授業を推進センターでまとめさせていただきました

伊那市学校教育情報化ビジョン2024

探究的な学び

先進的な学び

個別最適な学び

協働的な学び

自主的な学び

子どもと共に未来を創る教員